

No. J01	Aグループ	年月日	令和3年6月27日(日)
---------	-------	-----	--------------

## 設問

## [問い1]

事例Ⅰは、CLの何か自分が空回りしているような気がするという気持ちに対して好意的関心を持つことなく、CCtの価値観からCLの考えややり方が浸透していくには、もう少し時間がかかるのではないかと説得しており、信頼関係が築けていないと思われる。事例Ⅱは、「空回りしている」や「わかってくれない」とCLが感じた背景について質問することで何やってるんだろう、情けないなという気持ちに気づきを与え、さらに深く傾聴することにより新たな気づきが生まれ、自己探索が促されていると思われる。

## [問い2]

事例ⅠのCCt7 (相応しい・相応しくない)

理由：CLの感情に焦点をあてることなく、「組織としては普通だと思う」と一般論を伝えており、CLが納得していないことから信頼関係が築けていないと思われる。

事例ⅡのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由：CLが感じた情けないなという気持ちに対してCLの言葉を要約し、傾聴することで園を守ることしか考えていなかったかもしれないと新たな気づきを促しているため。

## [問い3]

CLは、保護者の対応を保育士に任せることなく、CL自身で対応してしまったが、それに対して職員に任せられずに園を守ることしか考えられていなかったことに気づき始めている。しかし、園長としての役割についての理解は不足していると思われる。また、CLが思う質の高い保育とは何かが具体化できていないことから、自己理解が不足していると思われる。

## [問い4]

CLは、自分の考えやノウハウを伝えたいと思っているが、園長としての役割について理解できていないと思われる。まずは、これまでの経験を棚卸しすることに加え、理想とする園長像を思い描いていただき、園長としての役割について深められるよう問いかけていく。また、CLの考える質の高い保育とはどういう保育なのか、さらに傾聴し、内省を促しながら一緒に考える。あわせて、現在の職員とCLの経験を照らし合わせ、職員の視点を持ちながら、自身が理想とする役割に近づけられるよう支援していく。

No. J01	Aグループ	年月日	令和3年10月3日(日)
---------	-------	-----	--------------

## 設問

## [問い1]

事例Ⅰでは、「方向を示すことは組織としては普通だと思う」、「浸透していくにはもう少し時間がかかる」等、CLの気持ちに寄り添うことなく面談を進めている。また、CCtの価値観で話が進められ、CLを説得しているようにも見受けられる。一方事例Ⅱでは、CLに対して好意的関心を示しながら、CLの感情へ問いかけをしている。また、CLが「空回りしている」、「分かってくれない」と感じた背景について質問することで、CLのこれまでになかった新たな気づきを促し、自己探索につながる支援ができていると思われる。

## [問い2]

事例ⅠのCCt7 (相応しい・相応しくない)

理由：CLの空回りしているという気持ちに焦点を当てることなく、CCtの仮定に基づく質問をしている。そのため、信頼関係の構築ができていないと思われるため。

事例ⅡのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由：CLの中で出てきた感情に対して、深掘りする質問を投げかけており、CLに気づきを与えている。その結果、CLの内省が始まり自己理解を促進していると思われるため。

## [問い3]

CLは職員に自分で考えて行動してほしいと思い、お手本を示すことで行動を促せると考えている。これまでのCL自身の経験をもとに行動しており、自身のようにやりがいを感じて行動してくれると思いついてしまっているが、職員の気持ちを理解することができていない。そのことから職員とのコミュニケーションが不足しており、また質の高い保育を目指しているが、園長としての役割についての理解も不足していると思われる。

## [問い4]

CLの考える園長の役割について理解を深められるよう傾聴を続けながら、これまでの経験を振り返っていただく。そのうえで現在の業務について棚卸をしていただき、園長としての仕事や役割について理解を深められるよう促す。また、CL自身が職員時代の気持ちを思い返していただくことで、職員の立場になったものの見方が出来るようにしたい。くわえて主体的に職員とのコミュニケーションがとれる機会を作れるよう促す。あわせてCL自身が理想とする保育や目指したい職場に近づけられるよう支援していく。